

平木白星 ひらぎ しろほし 詩人。明治九年二月、千叶縣市原郡姉崎村生れ、大正四年十一月二十日没（二六六―一九五）。本名照雄。筆名ゆくとく、大白星、平木凡介、白星逸人。第一高等學校中退。流信官吏。傍ら雜誌『東京獨立雜誌』、『明星』、『白百合』等の詩を発表。また與謝野寛（鐵幹）と韻文朗讀會を興じ、野口米次郎等の『あやめ會』に参加。更に近世詩社、都會詩社を主宰した。

著書『日本國歌』（明治二十六年一月、千白内外出版協會）、『處世の詩』（作歌、酒井勝軍作曲、明治二十六年三月十日大平洋館）、新體詩『心中おちよ新七』（明治二十七年十一月四日如山堂書店）、『あやめ草』あやめ會詩集第一（合著、明治二十九年六月一日如山堂書店）、劇詩『釋迦』（明治二十九年九月二十四日如山堂書店）、『新體桃太郎』（水嶋爾合作、明治四十年四月一日文祿堂書店）、『明治詩集』（附録・新體詩年表）（合著・吉野臥城編、明治四十一年一月二十七日由文堂）、後藤新平著『處生訓』（本名、編、明治四十四年五月五日由文堂）、劇曲『平糶』（明治四十五年四月十五日如山堂書店）等。

